

市況予想レンジ

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	2月～4月	11月	12月	1月
長期国債10年物(%)	1.50 ～2.10	1.645 ～1.765	1.565 ～1.700	1.645 ～1.760
円ドル相場(円)	110 ～123	115.40 ～118.47	114.53 ～119.22	118.15 ～122.20
TOPIX(東証株価指数)(ポイント)	1,600 ～1,850	1,526.37 ～1,629.29	1,594.72 ～1,685.76	1,650.82 ～1,749.18

今後3ヵ月の市況見通しに月次の実績を記載しております。

当面の見通しと注目点

ファンダメンタルズ

(日本)

内需は底堅く景気は回復基調を継続するものの、以下の要因で踊り場に。

外需: 足許、米国向け自動車的好調は続くものの、米欧向け資本財等の増勢にかけりが見られる。今後は、米欧景気のスローダウンや中国の投資抑制の影響を受ける形で、伸びは緩やかながら鈍化。

IT分野の生産スピード調整: 足許の大幅増産はナンバーポータビリティ制施行後の携帯電話買い替え、新型ゲーム機の発売に伴う一時的な在庫積み増しの側面が大きく、生産拡大テンポは今後やや鈍化する。ただし、電子デバイスの生産の予測指数を見る限り、その影響は限定的であり、その他、非IT部門、特に自動車、一般機械などで下支えが期待できることから、生産全体の大幅な調整は回避される見込み。

(米国)

住宅投資および住宅市況のピークアウトや、これまでの継続的な利上げの影響により、住宅、個人消費を中心に緩やかながら鈍化する。

住宅については先行指標的な市場インデックスやモーゲージの申請に底打ちの兆しが見られる一方、住宅価格の伸び率は大きく鈍化しているが、ホームエクイティローンを使用している多くの持ち家にまだ含み益があることから、消費への影響は限定的なものにとどまる可能性が高い。また、雇用も住宅建設関連以外での伸びはしっかりしており、所得の伸びも底堅く、ガソリン価格の一段の低下や株価の上昇にも支えられ、消費の減速は緩やかなものとなる見込み。

株 式

(国内)

当面は景気モメンタムが鈍化するものの内外ともに景気腰折れの可能性は低く、米国のソフトランディングへの確度が高まるとともに、企業業績についても今期の10%台半ばへの大幅上方修正、来期の10%近い増益への期待が高まるにつれて、株価は上昇に向かうものと予想する。バリュエーション面でも、現状のTOPIXはアナリストコンセンサスを前提とするとPER17倍台で割高感はなく、世界的には日本株の出遅れ感が強まっているため、外国人投資家の日本株物色買いも期待できる。

(米国)

緩やかな上昇を予想する。景気の面では、住宅市況減速の消費への悪影響がリスク要因として意識されるものの、住宅市場指数、モーゲージの新規申請件数など先行指標では持ち直しの兆しが見られる一方、ガソリン価格の一段の低下等を受け、消費の減速も限定的と予測される。インフレについては、これまで押し上げ寄りの大きかった住宅関連の伸び率鈍化により落ち着いた推移が見込まれる一方、足もとの商品価格の下落に伴い企業の取引条件は改善方向にあり、株価の下支えが期待できる。

債 券 ・ 為 替

(債券)

(日本) 金融政策について、展望レポートの「緩やかな景気拡大、物価上昇」という展開から大きく外れない限り、日銀は金利の正常化という名目で年度内0.25%の利上げを実施する見通し。なお、利上げ実施後も物価上昇ペースは加速せず、米国景気も力強さを欠くため、連続利上げの機運は高まらない。一方、長期金利は、こうした利上げが現実味を増すにつれ若干強含む可能性が高い。もっとも、米国の景気減速等により海外金利の上昇も見込みにくく、上昇余地も限定的。

(米国) 金融政策については、FEDは、足許のインフレ圧力への警戒を怠らない姿勢であり、当面金利を据置く可能性が高いが、インフレの低下から利下げバイアスをやや強めるものと思われる。

長期金利は、インフレ圧力が徐々に鈍化する一方、景気の大規模な減速も回避される見通しのもと、当面4%台半ばでの安定推移する見通し。

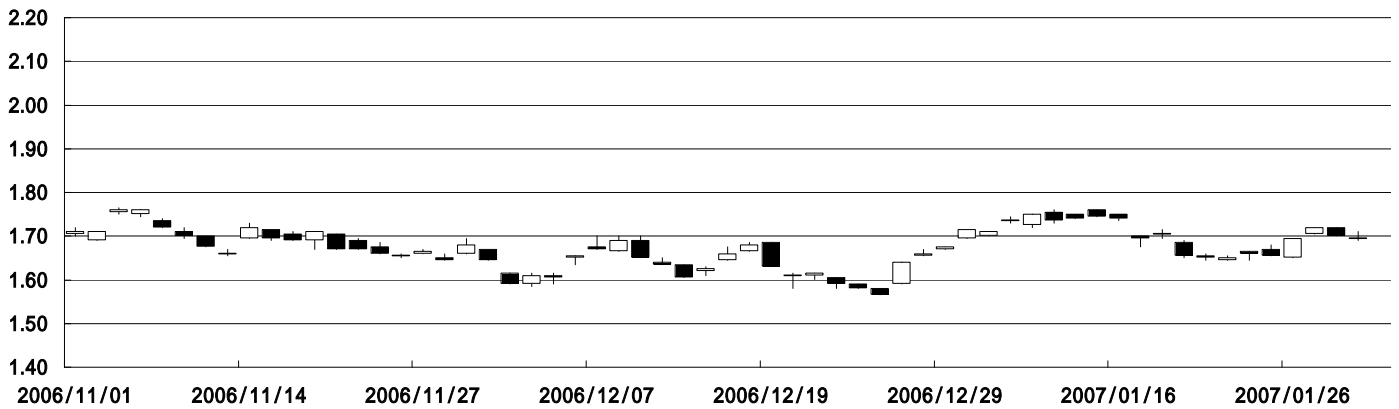
(為替)

日銀の利上げにより短期的に円高へ振れる局面も想定されるものの、断続的かつ大幅な利上げは期待薄であり、国内景気モメンタムも強くないことから、積極的な円買い材料が乏しく、絶対的な日米金利差を背景に、ドル高傾向が継続する見込み。もっとも、ドイツG7では円安について直接的な言及はなかったものの、グローバルでの不均衡是正に向けたドル調整局面において、高水準の円売りポジションへの懸念や対円での一段の上昇には内外各国当局からけん制的な発言が相次ぐことが予想されることなどから、円安ドル高進行余地も限られる見通し。

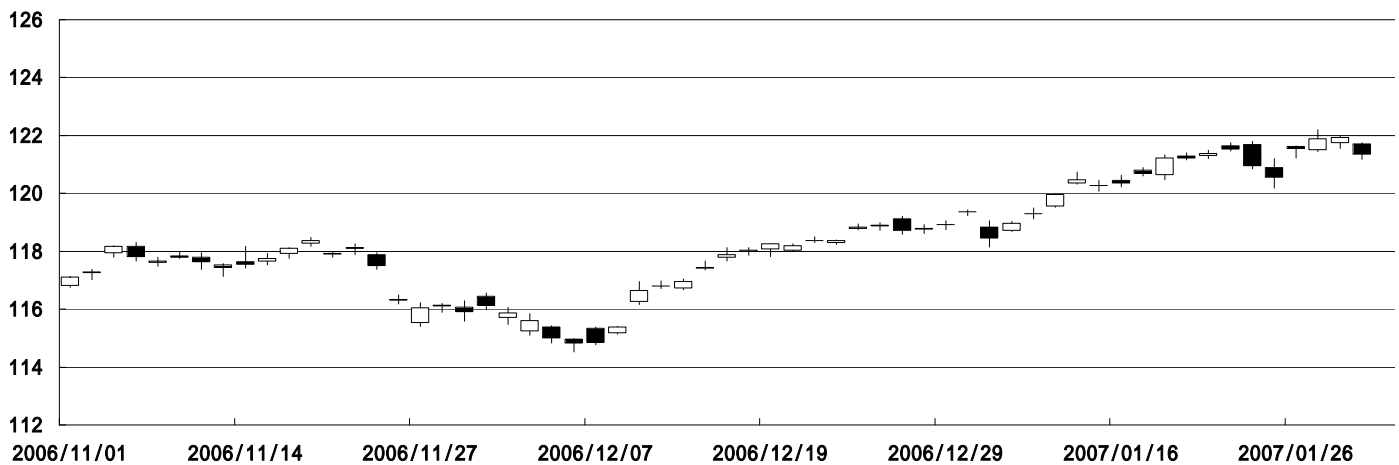
- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

市況の推移

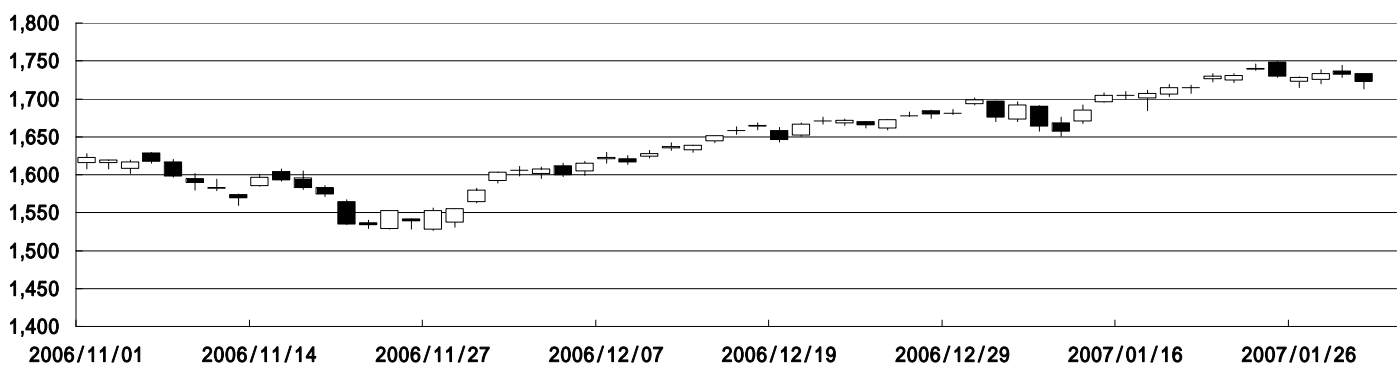
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



TOPIX(東証株価指数)



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料により直接投資の勧誘をするものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。